



## 韓国の運動に見る タルチュム(仮面劇)の 使いかた

藤本ひかる

青年たちが踊りだした

韓国で、キリスト教徒の青年たちの全国集会を傍聴した。三日間にわたって、経済、労働運動・民主化などの問題をあつかった総論から、若年労働者に対する压迫の具体的な例まで、さまざまとからず討論され、苦難のなかで「民衆ともある教会」をめざす青年たちの熱気が、会場をつんづんでいた。

その最初の夜、青年たち自身によって、タルチュム(仮面劇)に似せて、赤や黒に彩色されたタルチュムの仮面は、「見する」と鬼の面のようだ。腹黒い僧侶や酔っ払いの両班(支那風)に似せて、性病をしめす筋節がついていて、みにくく。しかし、じとじとみつめていると、それが農民たちの怒りや悲しみの表情も見え入る。聞くところによれば、かつて最低生活をしらべていた農民たちが、年に二度の祭りのとき、この仮面にかけて、特權階級を諷刺したのだといふ。青年たちのタルチュムを、民衆の演劇として再認識し、継承しようとしている。

ひい会場が椅子がとりはらわれ、最初に金賞で基本動作の練習をする。百数十人の青年たちが、ひととおり踊ったのち、大きな円陣をつくって踊り手の鼓動を待つ。ダンス(長鼓)と鐘の力づくで、六人の踊り手が鳴らし、田舎者がまことに踊り、やがて、一人のこして坐る。こったたの踊り手は、假面の口とともに人さし指をあてる。観客もむかって、するといかけ声をあげた。た。  
〔シーツ〕

間髪を入れずに、客が応じる。

〔シーツ〕

このやりとりが、二、三度くりかえされ、客たちの息がそぞろこころを見はからいで、踊り手は語らはじめた。大きな身ぶりで、唄うように語をみながり、諷刺やからかいめぐらしきをいう。一筋ごとに、矢や掛け声、笑い声がおこる。たとえば、こんなふうだ。

「ある奴にはある、なん奴にはなく」

「そうだ」

「奴らにはある。俺たちにはない」

「そのとおり」

「金力も、いい車も」

「ふふふ……だまれー」  
「奴のなはーのは、自由だけだ」

「お打ってひたチヤンクが、四拍子を打ちはじめる。輪のよこからか、歌声がわきおひづきの瞬間、それが全体にひつがる。

化運動のなかで、歌詞をかでうたわれたりしている。輪のよこからか、歌声がわきおひづきの耳もじめやしてくられた。

「……こうやつてアモに寝るんだよ。そつねば、眞諦者を運行しようとしている。うどきまゐる口碑のなかで、だれが最初にうたつたが、叶たが、当局の連中にはわからない。伝統演劇なら、頭をやつても、簡単に手だしはしく。踊りも歌も、たたかひの大劇場なんだ」

われらはアリバだ チョットタチヨア  
共に死に共に生き チョットタチヨア

ひきをひいて生きるのは  
立つたままだ死のうじゃないか

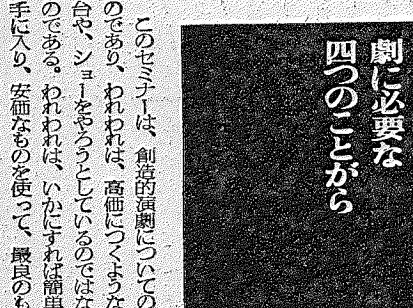
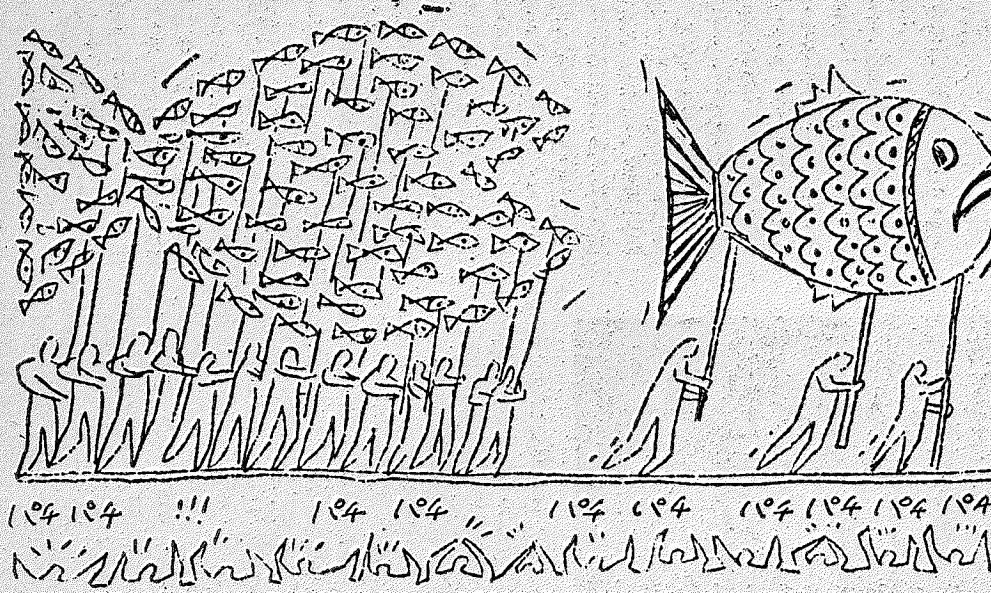
立つたままだ死のうんじゃない

立つたままだ死のうじゃないか









ミンダナオ風  
演劇のつくりかた

これは、フィリピンのダバオ市にある、「ミンダナオ・ヌルマニヤ聖職者会議書記局」(MSPCS)が編集した「創造的な劇つくり」というパンフレットの抄訳である。

MSPCSは、ミンダナオ島、およびスルビタニヤ諸島地域を含む、神父、尼僧、牧師の宗派をもえた「連絡会議」の書記局であり、農民運動、社会改革運動などの多様な活動をやこなっている。一九六〇年代になり、フィリピンのキリスト教徒は、西欧の教会からもたらされた宗教、伝道の活動方法が、フィリピンの現実にそぐわないといふ反省から、フィリピン教会独自の方法を生みだす必要にせざれ

た。その後、戒厳令下のマルコス独裁、外國資本の経済侵略という社会情勢がつき、貧農大衆の自立をめざす草の根運動の形成が急務となり、MSPCSは、PETA(フィリピン教育演劇協会)の演劇運動理論を柱にして、「社会意識のための教育劇」を実践する一大組織になった。たゞ今は、MSPCSのもと、「社会意識のための教育劇」という名によれば、ダバオ市近郊の貧民地区をまわり、学校や教会を劇場にして、民衆の日常生活一幕劇にしたものを作り、それだけでなく、その劇について、観客同士で討論させ、その討論の結果をもとに、社会の不正、抑圧の構造を観客自身が理解するようじむけるところだといえる。

国民の約70%が貧困にあえぎ、また、そのほとどんが文盲であるという事実がある。それでも、金をかけてできるだけのことを理解せしめたメディアが生み出されたのである。

このパンフはたたかひの手引きもある。

## ミンダナオ風 演劇のつくりかた

た。それが「劇つくり」の始まりだった。その後、戒厳令下のマルコス独裁、外國資本の経済侵略という社会情勢がつき、貧農大衆の自立をめざす草の根運動の形成が急務となり、MSPCSは、PETA(フィリピン教育演劇協会)の演劇運動理論を柱にして、「社会意識のための教育劇」という名によれば、ダバオ市近郊の貧民地区をまわり、学校や教会を劇場にして、民衆の日常生活一幕劇にしたものを作り、それだけでなく、その劇について、観客同士で討論させ、その討論の結果をもとに、社会の不正、抑圧の構造を観客自身が理解するようじむけるところだといえる。

国民の約70%が貧困にあえぎ、また、そのほとどんが文盲であるという事実がある。それでも、金をかけてできるだけのことを理解せしめたメディアが生み出されたのである。

このパンフはたたかひの手引きもある。

## なぜ劇をやるのか

われわれがこの宇宙に住んでいる。人間が全面的に解放されるという作業は、レベルで止っている限り何の意味もない。それは、だから共同体を形成していく過程の中で集中的に行わなくてはならない。そこで人々は人々個々でなく集合体として育む。かれらの才能や技術も、集団の形で伸ばしていくことができる。

農村共同体の人たちにとって、都會で一

スにいたマス・メディアは、役に立たない。

テレビ、映画、新聞、あるいはそれに類したものは、高づますぎるか、無駄なものである。そこで、もとと小さなメディアを発展させて、農村共同体向けにアレンジして利用できることにすることができる。

これが劇分担するといい。

それは地方の小さな共同体を含む。

自分たちで自力でやること。

身のまわりにあるもの、高価ではない材料を使うことの意味する。

歌、踊り、詩、芝居などいずれも、

リビングの伝統文化を根ざしたものから導かれるものを創る。

キリスト教徒の大司教に立つこと。

教区、管轄区域などMSPCを推進すべき地域にいるキリスト教徒先を充

分熱慮させるといつておきたい。

これが行為—反省—行為と云う方法論を發展させる。

6 全体的かつ歴史的現実に基いた共同観に立つこと。

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

7 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

8 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

9 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

10 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

11 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

12 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

13 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

14 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

15 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

16 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

17 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

18 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

19 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

20 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

21 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

22 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

23 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

24 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

25 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

26 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

27 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

28 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

29 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

30 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

31 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

32 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

33 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

34 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

35 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

36 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

37 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

38 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

39 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

40 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

41 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

42 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

43 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

44 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

45 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

46 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

47 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

48 創劇に必要な四つのこと

これが行為—反省—行為と云う

方法論を發展させる。

49 創劇に必要な四つのこと

</div











## 演出・アジア演劇の

佐藤信

- 1 八月、劇団創造の東京公演、おねえさん作「人類館」の舞台。崎派氏のねだりで「陳列室」の「天皇ヘイカ・パンシャーイ」に、客席は良く反応して笑った。「ザ」の第二幕を日雇用いながらナンチャーチーが繰り返す「パンシャーイ」は単に説明された風化教育の戯画、といふこととまらない景観を含んだ批評を内に秘めている。
- 2 さうでもない。任意の場所に数人の人物を置いてみよう。謙虚であ然としたものであれば、周囲の状況とは無関係で、突如としてその人物たちが四肢を硬直させ、目玉を三角にして、「音」に金切り声をあげる。その思いつめた表情からも明らかな通り、当人たちの主觀においては、それは大真面目なあるいは必死な行為であるだろう。しかし、その姿は滑稽である。喜劇的である。
- 3 たとえその効果の声が、「天皇ヘイカ・パンシャーイ」と、すべて正確な日本語の発音で流れていたとしても、ある。いや、そうであればなお一層のこと。
- 4 われわれがつづってきた(正確には最後の仕上げを前に足踏みじで)、「喜劇昭和の世界」のライトモチーフは、ひと口でいえばそこにある。
- 5 創団創造の「パンシャーイ」の喜劇は、われわれのつくらによした(する)「パンシャーイ」の喜劇で、さうして、どのように重なり合っているのか。
- 6 さうに想像するのもよ。いま仮に、その数人の人物たちがとてもいい歴史のなかの、あるいは現実の、アジアの場所に置いてみるのだ。もちろん、それがある時は沖縄でもあるだろが、また、他でもないこの日本本士でも一向に構わない。人物たちは、突然叫び声をあげる。「天皇ヘイカ・パンシャーイ」。喜劇は、さうしてその輪郭をくっきりとさせない。不条理じみたクロテスクな形

7 天皇制を制度と抽象してそれを批判する

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

11 ウチナンチャーチーの「パンシャーイ」という不自由は、そのまま、彼らの天皇制からの分离なく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、ことがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。

14 とりあえず、それはアジア喜劇という演出をどう程度に理解されても仕方がない。

15 アジアはわれわれを見返す。その視線の中におけるわれわれの喜劇を置きつける。

16 演劇表現などうのは、口(発声)であると同時に、目、耳(受け取る)行為でもある。

17 われわれの演劇でいま検討されなければならないのは、特に後者、目、耳としての表現なのではないか?

18 演劇における喜劇性は、ここでもきわめて重要な要素である。われわれは、集団的に受けとり、考へ、対象化する方法を検討していく。

19 「赤いキヤバエ」によるクシヨップの横顔は、このアジア演劇へのわれわれの第一の試みとしてある。

20 「喜氏物語」を演するため必要の本部では、テキストを読むことであった。しかも、それは、読み演ずるところが練習の過程ではござくなかったが、いよいよ読み上げ、上

棟とて日本書かぬ取り、そのままロンド舞台の上に投げ出しあなせば、振り返りておこなう。それで、その書きは、集団的

われわれは、喜劇といふ方法を、その本質において、まだ未だに意識化して捉えてゐると

は言ひ難い。

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を

11 知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、ことがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。

14 とりあえず、それはアジア喜劇といふ演

15 じう程度に理解されても仕方がない。

16 演劇表現などうのは、口(発声)である

17 われわれの演劇でいま検討されなければならないのは、特に後者、目、耳としての表

18 演劇における喜劇性は、ここでもきわめて重要な要素である。われわれは、集団的に受けとり、考へ、対象化する方法を検討していく。

19 「赤いキヤバエ」によるクシヨップの横顔は、このアジア演劇へのわれわれの第一の試みとしてある。

20 「喜氏物語」を演するため必要の本部では、テキストを読むことであった。しかも、

それは、読み演ずるところが練習の過程ではござくなかったが、いよいよ読み上げ、上

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を

11 知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、ことがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。

14 とりあえず、それはアジア喜劇といふ演

15 じう程度に理解されても仕方がない。

16 演劇表現などうのは、口(発声)である

17 われわれの演劇でいま検討されなければならないのは、特に後者、目、耳としての表

18 演劇における喜劇性は、ここでもきわめて重要な要素である。われわれは、集団的に受けとり、考へ、対象化する方法を検討していく。

19 「赤いキヤバエ」によるクシヨップの横顔は、このアジア演劇へのわれわれの第一の試みとしてある。

20 「喜氏物語」を演するため必要の本部では、テキストを読むことであった。しかも、

それは、読み演ずるところが練習の過程ではござくなかったが、いよいよ読み上げ、上

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を

11 知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、ことがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。

14 とりあえず、それはアジア喜劇といふ演

15 じう程度に理解されても仕方がない。

16 演劇表現などうのは、口(発声)である

17 われわれの演劇でいま検討されなければならないのは、特に後者、目、耳としての表

18 演劇における喜劇性は、ここでもきわめて重要な要素である。われわれは、集団的に受けとり、考へ、対象化する方法を検討していく。

19 「赤いキヤバエ」によるクシヨップの横顔は、このアジア演劇へのわれわれの第一の試みとしてある。

20 「喜氏物語」を演するため必要の本部では、テキストを読むことであった。しかも、

それは、読み演ずるところが練習の過程ではござくなかったが、いよいよ読み上げ、上

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を

11 知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、これがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。

14 とりあえず、それはアジア喜劇といふ演

15 じう程度に理解されても仕方がない。

16 演劇表現などうのは、口(発声)である

17 われわれの演劇でいま検討されなければならないのは、特に後者、目、耳としての表

18 演劇における喜劇性は、ここでもきわめて重要な要素である。われわれは、集団的に受けとり、考へ、対象化する方法を検討していく。

19 「赤いキヤバエ」によるクシヨップの横顔は、このアジア演劇へのわれわれの第一の試みとしてある。

20 「喜氏物語」を演するため必要の本部では、テキストを読むことであった。しかも、

それは、読み演ずるところが練習の過程ではござくなかったが、いよいよ読み上げ、上

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を

11 知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、これがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。

14 とりあえず、それはアジア喜劇といふ演

15 じう程度に理解されても仕方がない。

16 演劇表現などうのは、口(発声)である

17 われわれの演劇でいま検討されなければならないのは、特に後者、目、耳としての表

18 演劇における喜劇性は、ここでもきわめて重要な要素である。われわれは、集団的に受けとり、考へ、対象化する方法を検討していく。

19 「赤いキヤバエ」によるクシヨップの横顔は、このアジア演劇へのわれわれの第一の試みとしてある。

20 「喜氏物語」を演するため必要の本部では、テキストを読むことであった。しかも、

それは、読み演ずるところが練習の過程ではござくなかったが、いよいよ読み上げ、上

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を

11 知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、これがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。

14 とりあえず、それはアジア喜劇といふ演

15 じう程度に理解されても仕方がない。

16 演劇表現などうのは、口(発声)である

17 われわれの演劇でいま検討されなければならないのは、特に後者、目、耳としての表

18 演劇における喜劇性は、ここでもきわめて重要な要素である。われわれは、集団的に受けとり、考へ、対象化する方法を検討していく。

19 「赤いキヤバエ」によるクシヨップの横顔は、このアジア演劇へのわれわれの第一の試みとしてある。

20 「喜氏物語」を演するため必要の本部では、テキストを読むことであった。しかも、

それは、読み演ずるところが練習の過程ではござくなかったが、いよいよ読み上げ、上

8 人は眞実が眞実として具体的に見える時最もよく笑うのだ。

9 劇団創造の舞台で言えば、「パンシャー

イ」は、そうしてから筋道(筋道)每に現実を扱子にして、はがゆる事がらの喜劇性を、目前の喜劇として、現実化し、意識化していく

10 対象をただ見つめるだけではその眞実を

11 知ることはできない。対象から見抜される目限りなく、自由をもたらしていく。

12 妻は、われわれの「パンシャーイ」においても、これがほほではないか、と考えてみることはどうですか?

13 われわれの喜劇は、アジア喜劇の演出をほどこしてみるが、思つた。